書評

［評者］
廣田良夫
大阪市立大学大学院教授・公衆衛生学

基礎から学ぶ楽しい疫学　第３版

中村好一 著

● A5　頁 240　2013 年
定価 3,150 円(本体 3,000 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-01669-8]医学書院刊

中村好一先生著の『基礎から学ぶ楽しい疫学』が,「黄色い本」の愛称で好評を得ていることを，この５年間ほど聞き及んでいた．今般，本書の第３版発行に当たり書評の依頼を受けたことを機に，全ページにくまなく目を通した．元来，医学部学生を対象にまとめられたようであるが，医学・公衆衛生の広範な領域で既に活躍されている多くの方々にも読んで欲しい，そして必ずや疫学を楽しく学んでいただけることを確信できるテキストである．

国内外を問わず多くの疫学のテキストでは，本書の３つの章(疾病頻度の測定，疫学研究手法，偏りと交絡)の内容を中心に，「理解できぬ奴が悪い」と言わんばかりのしかつめらしい文章が続く．それはあたかも，「疫学者以外の者に疫学を容易に理解されてたまるものか」といった疫学者の偏屈な誇りが，行間にびっしりと詰まっているかのような雰囲気を醸し出している．その結果，多くの読者がもはや学ぶ気力を失って，「疫学は楽しくない」「疫学なんてわからなくとも構わない」と刷り込まれてしまっている．「疫学者とは数をかぞえることが得意な医師のことである」というジョークの所以でもある．

本書の中で引用されているように，中村先生は川崎病やクロイツフェルト・ヤコブ病などに関し，多くの臨床家や基礎医学者との交流の中で研究を遂行してこられた，実学としての疫学研究実践者である．

「理解が得られての疫学」という立場から，内容は秩序立てて整理され，説明の文章は簡明でわかりやすい．概念的でともすれば屁理屈と誤解されがちな疫学理論も，頭に心地よく浸み込むであろう．異なる見解があり一言では言い表しにくい，あるいは，断定しにくいといった事項については，いたずらにすべてを説明しようとせず，そのニュアンスを各ページの脚注で上手に伝えてある．中村先生の豊富な知識と経験がなせる技であろう．

本書は，記述疫学から分析疫学まで，既存データ活用および頻度調査から関連性検討まで，疫学の幅広い領域をカバーしている．また従来，疫学のテキストに記載されることが少なく，別途，臨床疫学や統計学のテキストを必要とすることがあった内容についても，「第７章　スクリーニング」や「第 10 章　疫学に必要な統計」にわかりやすく説明されている．

これから疫学を学ぼうとする人，研究報告や文献を理解するために疫学の知識を身につけたい人，いったんは挑戦したけど諦めた人，また，疫学なんて不要と考える現役の臨床研究者など，楽しく学べる本書をぜひ一読して欲しい．思考経路が拡大すること必定であろう．

また，中村先生におかれては，本書をさらに磨き上げることにより，疫学への理解と関心が深まり定着するよう，今後とも奮闘いただきたい．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013